

幕府権力の確立（大阪の陣）



* 毛利家文庫 58絵図72「大坂後戦図」

解説

徳川氏は、家康が1605（慶長10）年に将軍職を秀忠に譲り、徳川氏による永続的な政権掌握の意志を天下に表明したところから豊臣氏に臣従を迫りました。その結果、豊臣氏は牢人や武器を集め、徳川氏と戦う道を選ばざるを得なくなりました。

1614（慶長19）年11月、家康は全国の大名を召集して大阪城を攻囲、翌月には外堀を埋める条件で和議を結びました（冬の陣）が、翌年4月に戦闘が再開され、5月に豊臣秀頼とその母淀君は自殺し、大阪城も陥落しました（夏の陣）。

写真はその最後の戦い、夏の陣の陣備えを描いたものです。上の方に大阪城の豊臣秀頼、下の方に家康・秀忠の名が見えます。戦後徳川氏は秀頼の遺児や将兵の残党を厳しく搜索・処刑し、その年の閏6月には一国一城令、7月には武家諸法度、禁中並公家諸法度、諸宗本山本寺諸法度を発して統制を一層強化し、幕府の基礎を固めました。

* 毛利家文庫 58絵図にはこのほか、後年の写しを含め、867「大坂陣之図」、868「大坂冬陣之図」、869「大坂冬御陣」、870「大阪前戦之図」、871「大坂夏御陣」、873「大阪後戦之図」などがあります。

* 毛利家文庫 14軍記22「大坂陣」は、諸臣から書き出させた大阪の陣の関係資料を抄録したものです。